

○6番（近藤 敏彦君） 本日最後の一般質問でございます。大変お疲れのことやと思えますけれども、いましばらくご辛抱のほど、お願いいたします。

私の方から2点、今回は質問させていただきます。

1点目の高齢者の運転免許証返納について。

高齢者ドライバーによるブレーキとアクセルの踏み間違いや高速道路の逆走などの重大事故が毎日のように報道されている中、運転免許証を自主返納しようという動きが徐々に高まってきています。三重県の返納率は、全国でも残念ながら下位ランクに属しており、今後の対策が大きな課題となっております。

東員町は健康寿命の長いまちとして認知されつつありますが、高齢者が外に出て活躍するには、マイカーが必需品であることは明白であります。他府県を見てみると、免許証を自主返納することで、様々な恩恵が受けられる仕組みづくりをしているところも多々あります。本町では運転免許証の自主返納を促すために、どのような取り組みをしていく考えがあるのかをお伺いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 高齢者の運転免許証返納についてのご質問にお答えをいたします。

高齢者の運転による事故のニュースが毎日のように報道されまして、大きな社会問題となっております。

また、今年の3月には道路交通法も改正施行され、高齢運転者の対策が図られ、免許証の更新や自主返納率が改善しているのか、注目されているところでございます。

また、不安を感じたご家族からの相談や心配する家族を安心させるために、免許証を返納した方もあったとお聞きしております。

県内においても運転免許証の自主返納が進むよう、バス事業者が、運転経歴証明書を提示された方と同伴者に対して運賃半額制度をスタートさせた他、商業施設での割引サービスなどの返納の特典を広げる取り組みも見受けられ、免許証返納に対する意識は向上しています。

しかしながら、免許証返納後も代替の手段のある都市部とは本町は異なり、車が利用できなくなった高齢者の交通手段としましてはオレンジバスや北勢線など、限りがございます。

これまでマイカーで自由に移動していた方の多様なニーズに対応するためには、既存の公共交通だけでは困難な状況です。

移動手段を持たない高齢者には、介護サービスや福祉有償運送サービスの他、中上地区で取り組んでいただいている、地域全体で支え合う互助や共助による仕組みが必要となっております。

今後もオレンジバスや北勢線が利用しやすい生活の足の確保となるよう取り組んでまいります。町民の皆様やNPOなどと協働する仕組みを作っていくことが必要となります。

議員各位、また町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） よそではバスの運賃を半額にしたりだとか、いろんな試みがあるようですが、今日の私の趣旨というのは、免許証を返納することによって足が奪われるということを懸念しての質問なんです。よそというか、毎日のように高齢者の事故が報道されるわけなんですけども、東員町で高齢者が運転を誤って重大な事故を起こしたという話は、今のところ、私の記憶にあまりないんですけども、実際にこのような事例は町内で起きてますか。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 昨年の情報でございますが、おかげ様をもちまして、今のところ、そのような新聞に載るような事例は発生していない状況でございます。

以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 幸いなことに大きな事故はないということですけども、こんなことを言っただけですけども、結構高齢者の方の車を見ても、傷が目立つ車にお乗りの方も見えますし、うちの両親もボコボコの車に乗っております。実際気がつかないという方も見えるんですよ。どこでやったんかいなという感じの事故のされ方もありますので、その辺も懸念しながら免許証の返納を促していきたいなと、このように思います。

現在、本町では町内を巡回するオレンジバスを運行しております。利用者の多い地域や時間帯などのデータを取り、それらを基にして詳細な分析をしながら、運行ルートやダイヤが決めているものと思います。運転免許証の返納に伴って、今後増加するであろう利用者が不便を感じてはいけないことだと思います。オレンジバスの将来的な展望はどのようにお考えであるか、お聞きいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） オレンジバスにつきましては、平成17年運行開始から12年以上経ちまして、バス車両の更新時期も迎えております。また3台の車両で運行しております。その関係から、いろいろこれまでルートを見直してまいったところですが、やはり高齢者の利用については今後ますます増える、そういったことから、今のオレンジバスだけでは全てのニーズには対応しかねるというのが現状であろうと、これがやはりこれまでの経験上言えることだと。

ただ、じゃあどうするのかというところで、これからやはりバス車両の更新に際しまして新たな仕組みの導入を考えていかないといけないだろうと。また、今既存の29人乗りのバスが3台でございますが、3台現状のまま要るのか、そういったところの判断を、これから公共交通バスの会議とかで議論していきたいと思っております。

以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） まさにそのとおりなんです。29人乗りのバスを3台有して、それにかかる経費が結構なもの、年間かかっております。それに見合うだけの運賃収入があれ

ばいいんですけども、これは運賃収入をあてにしたサービスではありません。そのあたりをまた勘案して、先ほどおっしゃられたように、小さな車両を細かく配置するというような方法もあるかと思えます。

オレンジバスは路線バスということもあって、国土交通省などに運行届等を提出する義務があるのかなと思えますけども、ルートの変更などは、なかなか容易にはできないと。ダイヤの改正もなかなか容易にはできない。以前、町長がおっしゃっておられたように、玄関先までお迎えに上がるような、オンデマンド交通という方式を採用するという選択肢もあるんじゃないかと思えますけども、そのあたりはどうお考えですか。

○議長（鷺田 昭男君） 小川裕之副町長。

○副町長（小川 裕之君） 高齢者の移動手段の確保というのは大変難しい問題でございます。実はこれは国の方でも国土交通省が今年の3月から、高齢者の移動手段の確保に関する検討会というのを開催しております。その中でも言われていることは、まず一つは公共交通機関が依然として中心になるだろうと。その後にNPOなどのボランティア活動、そういったものを補完的にやっていく。それ以外に様々な交通手段、先ほど言われたオンデマンドなり、あるいは乗り合いタクシーなり、福祉の関係の有償での運送とか、様々なものを組み合わせて、その地域に合った形でやっていこうと。まだ最終報告出てませんが、中間報告ではそういう話も出てきておりますので、やはりそういったことは頭に入れていかなければならないだろうと思えます。

ただ金銭面ですね、高齢者の方は基本的に所得が、仕事を持っている方よりも低くなりますから、そのあたりの金銭的な面をどうするのかとか、あるいはまた連絡体制を、オンデマンドであれば当然予約をしていく必要もございますので、そういったシステムをどういうふうに構築していくのかという、技術的な面も今後検討していく必要はあるかと思えますけども、そういった今ご提案があったようなことも頭に入れながら、今後の公共交通機関プラス高齢者に対する交通移動手段の確保というものを考えていきたいというふうに思ってます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） これから様々な手段を、皆さん一緒になって考える時期かなというふうに思います。オレンジバスの車両の老朽化とか、そういったものに時期を合わせて変えていくのも、タイミング的にはいいんじゃないかなと思ってますので、今の3台のオレンジバスを一遍にゴロッと変えるのではなくて、もうこれは1台、そろそろ寿命が近づいてきたというところに、代替えできるような車両の購入だとか、計画的にやっていかないといかんのかなという気がしますので、その辺も長い目でいいますか、比較的長い目で見ていく必要はあるのかもわかりませんが、喫緊の問題ですもので、計画性を持ってやっていきたいなと思えます。

公共の施設にしても交通機関にしても、利用する場合というのは、受益者負担という考え方が当然だと思うんですよ。町のオレンジバスに限らず、他の路線バスやタクシーなどを利用した場合に、それらにかかった料金の一部負担、これは当然本人も負担していただかないといけ

ませんが、町もそういったタクシー料金とか、その辺の一部の負担をしていってはどうかなと思います、その辺のお考えはどうですか。

○議長（鷺田 昭男君） 小川裕之副町長。

○副町長（小川 裕之君） これから検討することになるとは思いますけども、全体的にどの程度の利用が予測されるのか、それに伴う費用が全体的にどのぐらいかかるのか、そういったことも計算をしながら、なおかつ所得水準とか、そういったものを含めながら考えていくと、すぐには答えはなかなか出ないんですけども、それなりの助成というのは、やはり必要になってくる場面があるかなと思いますけども、それが今の段階で財政状況を鑑みたときに、この場でストレートに言えるかという、もうしばらく検討しないとなかなか言えない部分がございますので、そのあたりはご了解いただきながら検討する必要はあるだろうと思っております。

以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 先ほどから申し上げておるように、町で保有するバスにかかる費用と、そういった一部公共機関の助成に充てられる費用と、当然費用対効果があって、どちらか安い方を取らざるを得んのかなと思いますけども。

例えば東員町の方で結構な利用率があるということを取クシー会社が見込める場合、東員町に何台常に配車しようとかいうことで、やっぱり1台や2台ではちがきませんので、何台かの台数を東員町に配置しようということになれば、利用料金も恐らく交渉次第では安くなるんじゃないかなという、素人考えですけどね、そのような考え方もありますので、それを実際、町がバスを保有して、四六時中、一日中巡回させるのではなくて、もっと効率のいい方法があると思います。自分ところで抱えるのではなくて、外部にどんどん委託するような方法もあると思いますので、その辺もぜひ含めて今後検討していただけたらなと思います。

あと菰野町で導入している方式で、アイアイ自動車というのがあるんです。公共交通が行き渡っていない空白地でのサービスで、利用する人は登録制になっておりまして、スマホやタブレットなどから、いつ、どこからどこまでを利用したいというようなオーダーを入力しますと、配車センターにそれが繋がります。こちら一般の方が登録した一般ドライバーにそういったオーダーが通知されるシステムで、利用者の条件に合ったドライバーさんが、指定された場所まで迎えに行くというシステムであります。

このシステムのよいところは有償であるということなんです。タクシー料金よりもはるかに安い金額を支払うことで、利用する側も提供する側も気持ちよくやりとりができる点にあると思います。このようなアイアイ自動車というシステムを聞いたことがありますでしょうか。また、こういうようなシステムについて、どんな感想をお持ちですか。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 近藤議員おっしゃってみるのは、平成27年3月に道路運送法が改正され、そこから適用になった案件だろうと思うんですが、こちらにつきましては交通空白地の輸送ということで、菰野町の特に小高方面ですかね、交通公共機関がないと。そ

ういったところに対して、乗車定員1人以上の自動車等を導入する場合に、有償である場合に認められたやり方と。その場合には地域公共交通会議等で合意があれば、そういった手法も取れるということになっております。

ただ、小高の方と東員町のどの地域がというと、必ずしも合致するとは限らないというところがありますので、直ちにうちが交通空白地域として適用を受けるかというところ、非常に微妙だと思っております。

以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） オレンジバスにしても、こういったアイアイ自動車にしても、アイアイ自動車というのは、福祉的な意味合いが含まれているのかなというふうに思いますが、オレンジバスのような公共の運送を目的としたやり方と、福祉バスみたいな福祉を前提にしたやり方とあると思うんですけども、東員町にとってどんなような方向性というか、意味合いを持った交通機関が必要やとお考えなのか、その辺ちょっとお聞かせいただけませんか。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） すみません。1点、ちょっと発言の訂正をさせていただきます。近藤議員おっしゃっていただいた該当のバスはオーバーレーンですかね、そちらを走っておるバスで、こちらの対象は、市町村の福祉輸送という形で動いておるものということで、ちょっと勘違いをしております。

それで、どのようなことになりますと、やはり私ども、基本的には受益者負担を含めた有償のあり方で、できるだけ道路交通運送法、また中部運輸局等の模範事例等を踏まえて導入を考えていきたいというところでございまして、できるだけ補助のあるものと考えていきたいというふうに思っております。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） あらゆる事例を検討していただいて、また進めていただけたらと思います。

あと大阪府などで運転免許証を返納すると、その制度に協力する店舗などで買い物をする際に割引きをするなどの特典があるようです。運転免許証を返納して、どうして買い物の割引きが必要なのかなというふうに思ってしまうんですけども、免許証の返納率の向上には、少なからず大きな影響を与えているような制度です。

冒頭で述べたように、東員町では元気な高齢者が多いという特色があります。元気だからこそ、外に出て買い物を楽しんだり、仲間との交流などをしたいという方々のことを考えたとき、徒歩や自転車で行けるような近場であれば全く問題はないのですが、自家用車という手段を手放すことによって、外に出て行く機会がなくなることで、これは避けるべきだと思います。

健康寿命の長いまちを目指すのであれば、家にこもってばかりではいけません。自家用車を利用しなくても気軽に出かけられるような仕組みを考えていく必要があるかと思っております。

今のところ、運転免許証の自主返納を促進する制度などは、都道府県ベースでの取り組みが

目立っておるようですけども、東員町という、またこれも地域性を活かして、町独自で進めていくことも必要ではないかと思っておりますけども、最後に東員町として、今後の運転免許証返納への取り組みの方向性ですね、どのように進めていかれるのかなということをお聞かせください。

○議長（鷺田 昭男君） 小川裕之副町長。

○副町長（小川 裕之君） 高齢者の特性、先ほどおっしゃられたように、いろんなところへ出かけていかなければ健康寿命が保てないということもありますし、高齢者の方は、ある意味時間の余裕があるということで、目的によって時間帯が決められる場合もあるんですね。例えば医者に行くならば午前中に行こうとか、そういう移動特性といいますか、そういったものも考えながらやっていくとなってくると、もう少し現状の分析をしていかないと、いま一つ、確かに選択肢としてはたくさんございますけども、先ほどから議員おっしゃっているように費用対効果等を含めていくと、なかなかそれが一つにまとまることは難しいと思っておりますので、ネオポリスの地域特性もありますし、在来の地域特性もありますし、そういった地域特性も分析をしながら進めていくしかないのかなと思っておりますので、その点ご理解いただきたいと思っております。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） まさに私が思っているのは、ネオポリスのような団地は比較的バスも基盤の目になって、結構自分の家の近くまで通っている利便性のいい地域やなと思っております。それに反して在来地区はバスも通ってない、電車もない、本当にオレンジバスぐらいしか通ってないような地域がほとんどなんですよ。

地域性を活かしてというのは、僕はその辺をまさに言っているのもあって、団地と在来地区を同じように考えておっては、なかなかうまいこといかんのかなと思っておりますので、その辺のデータ取りというか、分析をしっかりしていただいて、今後に繋げていっていただきたいというふうに思います。

私、毎年地元のシニアクラブの総会に招かれて、そこでちょっとご挨拶をさせていただくんですけども、今年は高齢者の運転免許証の返納について、お話をさせていただいたんです。やっぱり皆さん、元気な方が多くて、今の時点で返納というのは恐らく考えづらいかと思うんですけども、これは町としても、皆さんの足のことを一生懸命考えていく必要があるんで、その辺は私も一緒になって考えますので、というふうにお約束をしてきましたので、ぜひともほっちらかしということのないように、町としての将来的な大きな問題になってきますので、ぜひ前向きに考えていっていただければなと思っております。

これで1つ目の質問を終わらせていただきます。

次に道路整備の進捗について、平成27年12月議会でお伺いをしました幹線道路の整備について、その後の進捗をお伺いします。

長深から大安の神戸製鋼に向けての、養父川と書いてありますが、すみません、三孤子川沿いの堤防道路の拡幅については約8億円の予算が必要とのことで、財政的に難しいという答弁でした。その近辺の田んぼを集積して住宅地とする計画が進んでいると今聞いております。拡

幅工事をするのであれば、絶好のタイミングであると思いますが、見解をお示しいただきたい  
と思います。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） それでは近藤議員の「道路整備の進捗について」、お答え  
を申し上げます。

三和地区では平成25年11月にイオンモール東員がオープンをし、昨年8月には東員イン  
ターチェンジが開通をいたしました。

このことによりまして、三和地区の道路交通環境は大きく変化をしたところです。遠方から  
の買い物客の来店などにより、周辺道路の交通量も増加をしていると思われま

す。議員ご指摘の道路整備につきましては、交通安全の面からも大変重要であると認識をいたし  
ているところでございます。

ご質問の中で、三和小学校付近での住宅開発計画のお話がありました。この民間開発計画  
に合わせての道路整備を行っては、とのことですが、午前中の南部議員のご質問でも  
町長がお答えをいたしておりますが、当該地区で住居系の開発に関して話があることは承知を  
しておりますが、具体的に事業実施に向けた協議は、現時点では行ってございません。

さて、この道路整備のご質問につきましては、平成27年12月議会でご答弁を申し上げま  
したとおり、三孤子川左岸に沿ってイオンモール東員店から西へ、いなべ市までの新設道路事  
業を実施いたしますと、議員ご案内のように、約8億円の事業費が必要となってまいります。

また、現在工事中の東海環状自動車道と合わせて事業を実施する予定の国道365号バイパ  
ス等の4車線化工事、これが完了いたしますと、交通状況も変わってくるというふうに考  
えてございますので、このようなことから、現段階での三孤子川左岸新設道路の事業化につ  
きましては財政的にも困難と考えております。

どうかよろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） これも前回同様のことをお聞きした記憶があるんですけども、  
長深から神戸製鋼まで行く間の道が広がると、いなべ市の大安町の方々も非常に便利になるん  
じゃないかなというふうに思います。

大きな工場を有する地域でありますので、通勤の方々にも便利に使っていただけるのかなと  
思いますけども、例えばこれは東員町地内の道路なんですけども、この道路ができることによ  
って、いなべ市の方が便利に使われるということであれば、いなべ市にとっても条件的にはい  
いことなんじゃないかなと思いますけども、いなべ市にお金を出せということは、なかなか言  
いづらいことかもわかりませんが、例えばこういうような計画をしようと思いますけども  
どうですかというようなことを、いなべ市さんに持ちかけたということはありますか。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 実はこの件に関しましては、逆にいなべ市長からお話をいただ

きました。私は東員町の区間が多いんですけど、この事業をいなべ市と共同でやるのなら考えてもいいよという話を市長にボールを渡したんですが、その後、何の返事もございませんので、その話は絶ち消えになったのかなというふうに思ってます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） まさにいい話じゃないですか。いなべ市さんからそういうお話があったということですね、ボールは向こうに渡っているかもわかりませんが、もう一回打診していただいて、あのボールどこへ行ったんやと、そろそろ返事をいただきたいというようなことを、もう一回ぐらいい言ってもらってもいいかなと思いますので、これが絶ち切れということに、今の時点ではしていただきたくないというのが僕の本音です。

あと現在、東員町を走る東西方向の幹線道路は、笹尾・城山地区の下を走る国道421号線と員弁街道といわれる県道14号線、そして員弁川右岸の国道365号線が主なところですね。大安町の神戸製鋼に抜ける道として、三和小学校北側の、今度は養父川沿いを走る車の多いことにはお気づきのことかなと思います。員弁川よりも南側に、利便性のよい幹線道路を望む声が多いのも事実であります。それはイオンや東員インターなどが立地する、町内でも車の往来が激しい地区であるがこその声であると思います。

生活の安全性を考えたら、いち早く取りかかる事業だと考えますけども、当然、先ほど建設部長がおっしゃられたようにお金のかかることであります。それは午前中のいろんな東員町の建物の老朽化だとか、今後もお金がかかることが目白押しなことはよくわかっておりますけども、生活の安全性ということを考えてみると、やっぱり重要な事業ではないかなというふうに思いますが、道をつけるということですね、生活の安全性を確保した道をつけるということに、どれぐらいの重きを置かれているかということをお尋ねします。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お答え申し上げます。

数々の主要道ですね、これにつきましては議員のおっしゃるとおりでございます。特に国道421号線につきましては、東員町からいなべ市のちょうど境ですね、あれの部分につきましては、今年度しっかりカーブの部分をやっていただくということで今現在やってございます。

先ほど申し上げましたとおり、国道365号線のバイパスにつきましては、イオンの前の4車線化、これにつきましては、しっかりと要求をしたところ、どうもこれも平成29年度に一部着工ということでやっていただきます。

県道14号線につきましては、これについても部分的にやっていただくということをお話を聞いてございます。

養父川の道路につきましては、そもそも道路というのは中長期的に考えていかななくてはならないということがまず第一でございます。当然全体の予算の制約の中で、先ほど議員言われたとおり、防災・減災や老朽化対策、またメンテナンス、耐震化、これらをまず第一優先にやっていくべきだと思っております。それをするところで、なかなか新設へ回せる財源が不足してございます。これにつきましては、集約・再編についても果敢に対処をいたしまして、しっか

りと道路のインフラ整備、これはやっていかななくてはいけないと思いますので、国の補助金等々を使いまして、やれるところはしっかり計画をしていくということでございます。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 先ほど申し上げたのは、町内を走る東西の道についてお聞きしたわけなんですけども、今度は南北を走る路線で、東から言いますと山城穴太線、役場の隣を通る北大社・笹尾長深線の2路線が重立ったところで、一番西を通るもう一方の北大社・笹尾長深線では、幹線道路とは謳うことができないほどの道幅の狭い部分が多くて、利便性の低い道路となっているのが現状であります。どの狭隘道路も、拡幅するには土地の確保が一番の課題となってくるわけなんですけども、状況としては少しずつでもよい方向に向かっているのか、その辺の狭隘道路の対策ですね、進捗ぐあいをお聞かせください。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） まず最初に北大社・笹尾長深線ですけど、都市計画道路になってございまして、ここの部分につきましては、今まで全く都市計画道路に関しましては手をつけられないというか、つけていなかったという状況でございます。

これにつきましては町長ご就任以来、特にここの役場付近のクランク、これはこのままでいいのかということで、すぐに対策を立てるということで、県の方と協議いたしましたところ、平成29年度におきまして、そのまま中央大橋まではクランクなしで、あのまま真っすぐ行って、道路の下を通ってそのまま行きましょよと、スムーズに行けるように県の方もご承認いただいておりますので、いよいよ用地買収等にかかる予定でございます。

その他の道路につきましては狭隘道路等々、県の事業もございまして、それを有効に活用しながら、これから例えばある部分だけはスムーズに対向できるとか、そういったことで県にも要望してまいりますし、私どもの生活道路につきましても宅地が新しく建った場合、そういったことをお願いをしながら用地を確保していくということでございます。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 新しく家を建てられた場合のタイミングでしか、セットバックというか、下がれない、お願いできないというのは重々承知なんですけども、その辺、実際この数年間で本当にお願いで下がっていただいて、そこの道が広がったという事例がどれほどあるのか、ざっくりでいいですけど、前進しているのかどうか、ちょっとお聞きします。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 狭隘道路事業につきましては、県の補助金がございます。それについて、ほぼ毎年使い切っておるということでございます。近々でも例えば瀬古泉の中とか南大社の中とかやっております。件数は、今ちょっと数字を持ち合わせておりませんので、また後ほど。

すみません、以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 予算を使い切っただけにしているということは、それなりの対応をいただいているのかなと思いますので、ありがたいことと受けとめさせていただきます。

あと、先ほどの補助金等のお話も出たんですけども、道路整備につきましては、多額の予算を必要とすることは周知のとおりなでありますけども、その財源として、社会資本整備総合交付金などを充てないことには、町単独の予算ではなかなか賄い切れなないかと思えます。社会資本整備総合交付金や、それに準ずるような交付金などの今後の計画、見込みを、具体的などころがあれば教えてください。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） その前に当然、今日の日本の社会におきましては、どこの地方自治体、国におきましても、財政の健全化、これにつきましてしっかりやっということで、財政の健全化との両立の観点も、道路事業は忘れてはならないと思えます。これは私どもの予算要求をする時点でも、財政当局とよくやり合ってますけども、後々に残していく社会インフラの整備というのは大変重要でございます。先ほども申し上げましたように、中長期的に立った計画をしっかりやっていきたいと思えます。

その中で議員申しておられます補助金でございますね、これについてはいわゆる社会資本の整備総合交付金、これを活用しながら、まずは先ほどの維持管理等々それと通学路、これを最優先に今考えてございます。

以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 近藤敏彦議員。

○6番（近藤 敏彦君） 東員町、非常に住みやすいまちやと言われてまして、先ほど来から出てますイオンもできて、東員インターもできて、子育てにもものすごく優しいまちやということで人気のあるまちなんですね。あと住宅整備が整えば、東員町に来たいよという若い世帯、結構いらっしゃると聞いてます。

その中で、午前中ありましたように、三和地区の住宅整備等も進めていかないといかんところなんですけども、道は狭いわ、カクカクに曲がっておるやわ、非常にそういう何というのか、インフラ的な道路整備だとか、そういった面では非常に不便なところも多々まだ残っておりますので、その辺もやっぱりトータル的に考えて、住みやすいまちというか、安全で住みやすいまちというのを目指していただきたいと思います、このように思えます。

あと今後、東員町では老朽化した施設の修繕や建て替え、下水道管などの取りかえ、道路の補修など、インフラ整備に費やす費用は、かなりな規模であると思われま。どれも後回しにできない事業ばかりが目白押しでやってまいります。優先順位は当然あるにしても、町民が安心して日常を送れる安全なまちを念頭に置いていただきたいと思います。

車を運転していても、車一台通るのがやっとといった道路が、あちこちにまだ残されております。対向車が来たらどうしよう、子どもが飛び出してきたらどうしようなどと考えながら、

毎日の生活に使われている方々がたくさんいらっしゃいます。せめて町内の幹線道路だけは、安心して安全に利用できる道路にさせていただけることを強く要望いたしまして、本日の私の質問を終わらせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。